

二十一世紀の飛翔

H i s t o r y o f L i b e r t y H i l l

福原学園創立60周年記念誌小史



INDEX	002
60周年を迎えて／理事長あいさつ	004
祝辞	005
現役員紹介	008
福原学園の組織機構図	009
自由ヶ丘60年の時を超えて	010
学園グラビア	028
国際交流姉妹校紹介	036
学長・校長あいさつ	038
学園小年表	042

福原学園 学園歌

一、昔と語るか 遠賀の流れ

宝庫筑豊 扉開かん

福祉日本の 希望讃えて

若人羽搏く 自由ヶ丘

あ、其名燦たり 福原学園

二、黒煙みなぎる 工都八幡に

男の子我いぞ 叡智磨かん

女我いぞ 文化築かん

若人羽搏く 自由ヶ丘

あ、其名凜たり 福原学園

三、船路は栄行く 港洞海

帆影 船影 近く見なして

理想輝やく 平和佳き郷

若人羽搏く 自由ヶ丘

あ、其名巖たり 福原学園

60周年を迎えて 理事長あいさつ



学校法人福原学園理事長

福原 弘之

昭和二十二年、戦後間もない、生活に追われる世情の中で、創設者福原軍造が「教育は私学から」の強い信念のもとに福原高等学院を開設し、福原学園の第一歩を標してから、早や六十年が経過いたしました。その間に、大学、短大、高校、幼稚園を擁する総合学園へと発展してまいりました。現在の学園の発展は、曠野を切り拓いた多くの先達の思いを抜きに語ることはできません。今の私たちに、先人の艱難辛苦を体することは容易なことではありませんが、これから将来のことを考えれば、創設者の強靱な精神をしつかりと胸に刻み、忘れないようにしたいものです。

さて、本学園の教育活動につきましては、平素より多方面の方々からご理解を賜り、有形無形のご支援・ご協力を頂いております。また、折尾という地域と共に歩んで参りました本学園は、お世話になっている人々だけでなく、折尾という地域にも恩返しをしたいと考えております。そのためには、私学を取り巻く厳しい経営環境を乗り切り、学生・生徒・園児が安心して学べる環境を作り出し、地域から評価される学園を創造していくことが重要だと考えます。

私は、建学の精神「自律処行」の原点に立ち返り、諸改革に着手してまいる所存です。明日の福原学園を創り上げていくためにも、今一度、教職員全員が建学の精神を再認識し、具現化していく努力を続けることが、諸改革の成否を分けるものと考えます。

新たな学部の新設も視野に入れた教育・研究組織の見直しと再構築、学生への教育支援・キャリア支援等をこれまで以上に充実するとともに、学生・生徒・園児の皆さんに快適な学びの空間を提供するべく、キャンパス内の施設環境の整備を粛々と進めているところであります。

最後に、創立六十周年記念誌を発刊するにあたり、祝辞を賜りました皆様、編集にご協力いただきました関係者各位に、心から感謝申し上げます。そして、今後とも皆様からこれまで以上のご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

祝 辞



福岡県知事

麻生 渡

福原学園の創立六十周年を、心からお喜び申し上げます。

貴学園は、昭和二十二年の福原高等学院にはじまり、現在では三大学一高等学校二幼稚園を擁する県内有数の学園として躍進を続けられ、本県の人材育成、地域社会の発展に大きく貢献されております。また、最近では九州共立大学に新たにスポーツ学部を開設するなど、地域社会の要請にあつた学園運営を積極的に行っていることも印象深いものです。

理事長、学長、校長先生をはじめ、歴代の学園関係者の皆さまのご努力と教育に対する並々ならぬご熱意に深く敬意を表します。

今日、わが国の社会経済は、少子・高齢化やグローバル化の進展など、大きな変革期を迎えております。このような中、将来を担う子どもたちには、確かな学力と、自ら考え、判断し、行動する力が強く求められております。

貴学園が、創立以来、「自律処行」の建学の精神に基づき、「自ら建てた規範に従って、自分の判断と責任の下に行動できる人材」の育成を実践されていることは、まさに時代の要請にかなつたものです。

福原理事長をはじめ教職員の皆さま方におかれましては、次代を担う子どもたちが大きな志や勇気を持って、失敗を恐れず果敢に挑戦していく力を身につけられるよう、今後ともご尽力いただきますよう、お願いいたします。

歴史と伝統ある福原学園で学ぶ皆さんには、諸先輩方が築いてこられた伝統をしっかりと受け継ぎ、勉学に励み、学園生活等を通して学友との友情を育みながら、それぞれが描く将来の夢に向かって日々精進していただきたいと思っております。

終わりに、創立六十周年を迎えた福原学園が、今後ますます発展されますことを祈念してお祝いの言葉といたします。



衆議院議員（元外務大臣）

麻生 太郎

このたび、学校法人福原学園が創立六十周年を迎えられますこと、心よりお祝い申し上げます。福原学園は、昭和二十二年に福原軍造先生によって創設された福原高等学院をその嚆矢とされます。爾後建学の精神である「自律処行」に基づいた教育活動を行い、昭和二十五年の高等学校の開設、昭和三十五年の短期大学の開設、昭和三十七年の大学及び幼稚園の開設と着実な成長を遂げられ、今日では三大学一高校二幼稚園を擁する総合学園に発展してきました。

これもひとえに福原軍造先生をはじめとする歴代の理事長先生、ならびに教職員の皆様の教育に対する情熱と弛みなき努力、学園に在籍する園児・生徒・学生の保護者、卒業生、地域の皆様のご支援の賜物であると深く敬意を表すところであります。

貴学園は建学の精神に基づいて地域に密着した教育活動を行うとともに、国際交流にも力を注いでこられました。現在、海外の多くの学校と姉妹校提携を結び、教育の相互交流を行っていると伺っております。

日本の国際的地位は大きく変化し、いまや、多くの分野において世界の先頭に立っています。今後は、日本文化を世界に発信しながら、各国との相互理解を図っていくことが大切になります。そのためには、海外における日本語学習者を増やし、日本語文化発信の基盤を整えていくことも必要となります。貴学園が今後も国際交流に力を注がれ、教育の相互交流を充実させていくことを期待しています。

現在、日本の学校は、少子社会の到来、社会のグローバル化等により、時代の要請に応えることが可能な自己変革が求められています。とりわけ、私学は、建学の精神に基づいた教育を行うことにより、明確な特色を打ち出すことが求められています。このたびの六十周年を機に、教育の刷新に取り組まれる貴学園への期待と信頼が一層高まるものと確信いたします。六十年かけて培った輝かしい伝統と実績を継承されつつ、福原弘之理事長先生のもと、さらなる躍進を遂げられますことを心よりお祈り申し上げます。



日本私立大学協会会長

大沼 淳

学校法人福原学園の創立六十周年にあたり、全国三百七十六校の私立大学をもって組織する日本私立大学協会を代表して心からお慶びを申し上げます。

ご高承の通り、我が国の教育界を俯瞰する時、高邁なる建学の精神を高らかに掲げ、独自の教育理念の実現を志向する私立学校の果たしてきた役割は誠に大いなるものがあります。

福原学園もまた、昭和二十二年、創設者の福原軍造先生の「幼稚園より大学まで一貫性の教育を目指す総合学園の建設」という深遠宏大で人間性あふれる教育への理想と情熱によって、福原高等学院の設立をもって開学されました。爾来、六十年の星霜のもと建学の精神「自律処行」を高らかに掲げ、時代の要請と社会の負託に応え、地域の教育環境の充実と高等教育の普及発展の歴史を積み重ねてこられました。

そして、現在では福原軍造先生の教育への強い思いを実現され、学園都市「折尾」において、経済学部・工学部・スポーツ学部・大学院を設置する九州共立大学および家政学部・人間科学部を設置する九州女子大学をはじめ、九州女子短期大学、自由ヶ丘高等学校、九州女子大学附属折尾幼稚園、自由ヶ丘幼稚園を擁する九州屈指の総合学園へと発展を遂げてこられました。

優秀なる教授陣容はもとより、絶えず時代の要請と学生・生徒たちの将来に視点をいた多彩な教育プログラムの導入、充実した施設設備、そして地域貢献事業の充実など、貴学園は地域に強く根ざしながら、個性を尊重し能力を伸ばす人間教育の場として確固たる地位を確立しております。

今日における福原学園のご隆盛は、歴代関係者の情熱と想像を絶するご苦勞の数々は申すまでもありませんが、我が国の教育文化への高邁なる理想の実現に心血を傾注される理事長福原弘之先生を中心とする教職員関係各位のご努力の賜物であると拝察されます。心から敬意を表しております。

混沌と激動の現代社会において、知識基盤社会の中心を担う私立大学と理想の教育を追求する私立学校は、教育研究の高度化・個性化・国際化への対応など多くの課題が山積みしておりますが、この時期こそわれわれ私学人一同は、叡智を結集の上、相携えて大学の使命達成と教育の理想の実現に邁進しなければなりません。

福原学園におかれましては、創立六十周年を契機に、創意工夫と時代進取の私学精神を遺憾なく発揮され、一層の躍進を遂げられますことをお祈り申し上げます、お祝いの言葉といたします。



理事長
福原 弘之



名誉総長
福原 ツルヲ



学園創設者
福原 軍造

役員・監事



理事
山崎 信行



理事
佐古 宣道



理事
福原 公子



理事
西田 浩文



理事
石津 和彌



理事
縣 善彦



理事
京谷 隆



理事
井上 応順



監事
藤原 欣一郎

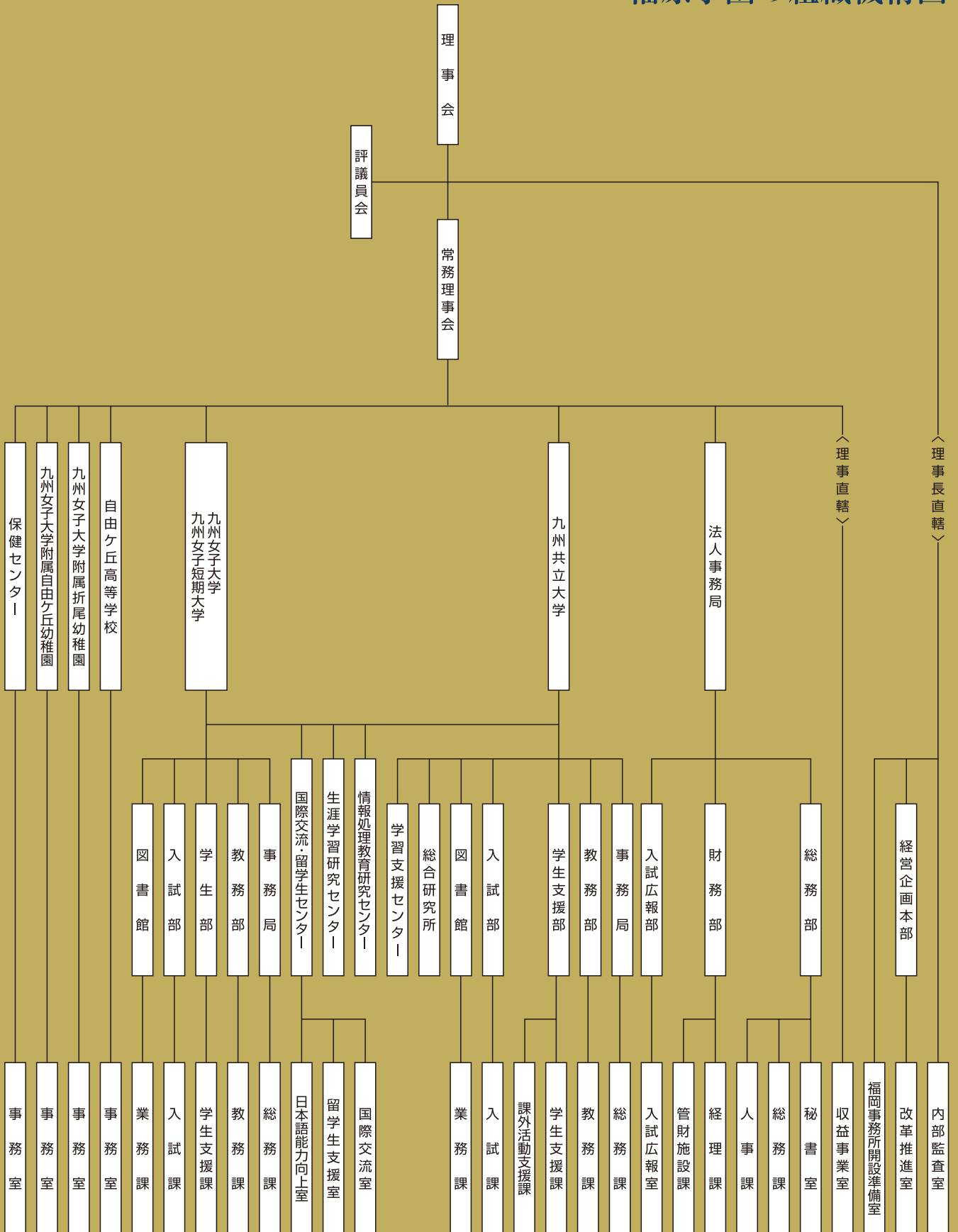


監事
生田 謙二



理事
奥田 俊博

福原学園の組織機構図



自由ヶ丘60年の時を超えて

学園創設者 福原軍造 教育者への道のり

福原学園の創設者である福原軍造先生は、明治三十五年一月二十八日、福岡県鞍手郡西川村字長谷四七五番地に福原家の五男として生まれた。父福原鶴吉と母アイは、従兄妹同士ということもあって仲むつまじく、家庭は和やかだった。

福原家は、代々豊後国府内城主の家柄で、慶長五（一六〇〇）年の関ヶ原合戦に豊臣側として参戦。しかし、徳川方に敗れ、一族は後難を逃れて秋月藩に身を寄せる。以後、長谷の山里で農耕生活を送ることになった。

福原少年は、生まれつき健康な身体に恵まれ、俊敏で、六ヶ岳の山野が遊び場だった。祖母ツネは、よく、「昔は長谷から新北にかけて他人の土地を踏むことはなかった」と、庄屋時代の福原家をしのびながら語ったという。そして、「福原家の家紋（日の丸の中に『一』）は、日本一を表しているんだよ」という祖母の言葉が、幼心に強く焼き付いた。西川尋常小学校に入学してからも、この祖母の言葉が折にふれて思い出され、福原少年の心の戒め、励ましとなった。

父鶴吉は、息子の資質を見抜いていたのだろう。「師範学校に行ったらどうか」と勧め、母も「学校の先生になったらいいがね」と優しく諭した。それで、福原少年は、自然と教育者の道へ傾いていった。

大正八年三月、福原少年は、小倉師範学校本科一部に合格。隣近所の人に「おめでとっございませう」とあいさつされ、両親が満足そうな顔をしているのを見て、「これでよかった。しっかりとやらねば」と決意を新たにされた。

師範学校は全寮制だった。福原少年はスポーツ万能で、勉学に加え、柔道や相撲で心技を伸ばして、負けじ魂を磨く。

こうして四年間、心身を鍛錬しながら学業に励み、大正十二年三月に小倉師範学校を卒業。小学校本科正教員の免許状を手にして、その年の四月一日、直方市の下境尋常小学校に赴任した。しかし、向学心に燃える気持ちに何か満たされないものを感じ、「もっと研究できるような心機一転を図りたい」と考えるようになった。

大正十四年九月には郷里に近い新入尋常小学校に転任。しかし、ここでも彼の研究欲を満足させることはできなかった。そこで、ついに意を決して校長に相談し、就職義務年限を終えた昭和二年二月、上京して、入試合格の通知を受けていた立正

大学に入學した。

東京遊学中は、学資を稼ぐため、郊外の荏原郡杜松尋常小学校に勤務。昼は小学校の教師、夜は立正大学で地理学を専攻するという苦学生生活であった。

そんなある日、勤めていた小学校の校長を介して、東京府学務部長から「郡教育刷新のため、新進気鋭の校長をぜひほしい。貴校の福原訓導（当時の教員の呼称）を抜擢したいのだが」と声がかかった。しかし、「教師であると同時に立正大学の学生として勉学を中断できない」という理由できっぱり断っている。

人生の転回期となった 七年間の在京生活

昭和五年三月、立正大学を卒業し、師範学校・中学校・高等女学校教諭の免許状（地理・歴史）を取得。その年、茨城県立境中学校教諭を拝命するが、近隣の日立中学校に柔道の有段者がいなかったため、「講道館三段の福原教諭にぜひ来てほしい」と懇請され、翌年四月、急遽、日立中学校に赴任した。

同地には、わが国屈指の日立銅山があり、史跡も多く、専攻科目の研修には好都



■相撲大会にて



■師範学校時代、恩師・学友とともに
(2列目左から4人目)



■福原軍造先生生家

合であったが、日本大学法文学部二部史学科に入学手続きを済ませていたため、再び働きながら学ぶ生活を繰り返すことになった。

昭和七年四月、鎌倉高等女学校教諭として転任発令があり、地理・歴史の担任科目のほかに国語を兼任。この鎌倉時代に、久米正雄氏や里見淳氏をはじめ、鎌倉在住の文士とも面談の機会を得た。また、地理・歴史の実践的研究を進めるなど、充実した日々を送っている。

そんな中、福岡県の井口末吉視学官から一通の書状が届いたのである。それは、「今、ある高校の地理・歴史の教師が欠員で困っている。この際、思い切って郷土福岡県のため、帰って来てほしい」というものであった。

かつて、親しい知人から「市の郊外に安く買える土地が一万坪ぐらいいあるが、買収して学校を建てたらどうか」と勧められたことがあった。かねてから「真の教育は私学でなければ望みがたい」と考えていたので、心動かされて郷里の両親に相談した。父は思うようにやらせたいようだったが、母から「ぜひとも学校を建てたいなら、郷里に帰ってからのことにしては……」と言われ、その時は思い留まった。この母の言葉が思い出され、「郷里に帰って学校を設立しよう」と決心したのである。

すぐに鎌倉高等女学校の校長に事情を伝えて了承されると、早速、井口視学官に

「転出可能、よろしく願います」という旨の書信をしたため、帰郷の準備にかかった。七年間の在京生活は、教育者・福原軍造の人生の転回期でもあった。

私学創設の精神：人間不在の教育から理想の教育へ

福原先生は、東京の都市文化の流れの中にある多くの矛盾に満ちた現実の生活と、学校教育の入試準備教育化、詰め込み主義の知識偏重・学力優先の教育はあっても、人間形成の基礎教育がないという問題について、常々考えていた。そして、明治時代の先覚者、福沢諭吉の明治二十二年の著「文明教育論」の一節に、「今の学校の仕組みは、多くは文字を教うるを以て目的となすもの如し。(中略)業成り課程を終えて学校を退きたる者は、徒らに難字を解して文字を書くのみにて更に物の役に立たず、教師の苦心は、僅かにこの活字引と写字機械とを製造するに止りて、世に無明の人物を増したるのみ。」と、知識偏重の詰め込み教育を批判しているのを読み起こす。時代は違っても、依然として停滞している教育の現実をいさめられているようで、この人間不在の教育を深く反省したのである。

このように、福原先生の私学創設の動機は、人間教育を忘れた教育への憂慮、さらに、個性に即して人間形成を図る教育

にあった。

従って、その建学の理想は、幼稚園より大学まで一貫した教育を目指す総合学園の建設という深遠宏大な志向にあり、その精神は「人による人にまでの教育」である。福原先生の教育体験の上に立つ教育理想は、教師その人にとっていい。自己の生涯を教育の道に捧げ尽くし、「他のため」にのみなし、己れの為めに「物も為さず」と碑銘に称えられた師聖。ヘスタロッチの教育精神こそ、わが私学の教師の精神であってほしいと考えたのである。

学園の建学の精神は、福原先生の教育体験と学園の歴史とともに定まっていた。昭和二十二年の福原高等学院創設においては、個性に即した人格形成を図るため、教師は教育愛に燃え、健康第一、個性の伸長、豊かな情操、道徳をキーワードに師弟が共に事をなし、共に考えるという教育を実践。醇風美俗の学風の醸成を図った。本学園の教育精神は、知性を深め、徳性を高め、情操豊かな調和のとれた人間の育成を目指してきたのである。



■立正大学時代の学友たち(後列左から52人目)



■単身で東京へと向かう



■教員として最初の赴任地・下境尋常小学校で

学園創設から総合学園へ

八幡市折尾町に 宿願の福原学園を創設

人間不在の教育を憂慮し、人間形成を目指す教育への転回を図るには私学創建しかない、と痛感した福原軍造先生は、帰郷し、昭和九年一月から福岡県宗像高等学校、翌十年五月から母校の小倉師範学校（のちに学芸大学となる）で教鞭をとりながら、機が熟すのを待った。

やがて第二次世界大戦が勃発。そんな中、福原学園の創設は、建設用地探しから始まった。候補予定地を郷里鞍手郡の①植木町、遠賀郡の②折尾町、③黒崎町の三地区にしぼり、学校の休日を利用して、候補地の現地踏査を行った。そして、

- ・ 交通至便で各地からの通学が容易であること
- ・ 空気が清澄で健康的な場所であり、学習環境に適していること
- ・ 地盤が安定しており、将来、用地拡張の可能性があること
- ・ 将来性のある文化的環境で、発展が期待できること

などを考慮して、「折尾」に白羽の矢を立てた。

当時の折尾駅から北の浅川一帯は、家影もほとんどない寂しい山奥の風情であった。土地の所有者である浅野セメント株式会社から希望通りに用地分譲が決まり、遠賀郡折尾町（昭和十九年八幡市に編入）

大字本城字大浦九八九番地の外、一万八千六百五平方メートルで、私学創建の基礎が固まった（昭和十八年登記）。

当時、戦局はいよいよ激烈を極めていた。そんな中、福原先生自ら樹木を伐り、人夫とともにつるはしを振るい、事業主兼現場監督となって、汗と油にまみれ、開拓と埋め立ての作業を進めた。

やがて終戦を迎えた日本では、連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）の頻発する指令により、学校は混迷状態にあったが、まもなくして戦後の教育再建のため、組織の編成替えが始まる。福原先生は、学生課長の任を解かれ、ようやく自由の身になると、今こそ、財団法人の設立計画や学校建築の構想設計に没頭した。

昭和二十二年三月初旬、建設の苦しみと喜びの中で第一期校舎が完成した。福原先生は、母校教授の職を辞し、同年四月、文部省の許可を得て福原高等学院を創立。私学創設を決議させた父祖の家名「福原」をそのまま学園の名称にして、「財団法人福原学園」とすること、また、ここに学ぶ者は学問の自由を旨とし、新生日本の将来の先達になってほしいという願いを込めて、この地を「自由ヶ丘」と呼ぶことに決めた。折りしも六・三・三・四の新学期が公布された四月一日、この機こそ、福原先生にとってまさに宿願達成の「天の時」であった。

「規律」「勤労」「礼儀」を 教育方針の徳目に

昭和二十二年四月八日（福原先生の実母の祥月命日）、福原高等学院の第一回入学式と学園創立記念式が行われ、創業の第一歩を踏み出した。第一回の女子入学生は百人足らず。生徒のほとんどはもっぱら姿であったが、その目は生き生きと輝いていた。

同校の教育方針は、次の四項目である。

- 一、健康第一とし、健全な精神を有する人物の養成
 - 二、個性の発見とその伸長による個性発揮の教育努力
 - 三、自然に親しみ、日本人としてのゆたかな情操の涵養
 - 四、道徳的実践力の養成
- これらの方針のもとに、師弟一如を重点目標とした具体的な教育計画が立てられた。

新学制スタートから三年目の昭和二十五年四月、新制高等学校とするため福原高等学院を発展的に解消し、新しく福原高等学校（全日制・家庭科）を開校。四月八日に第一回入学式を行い、高等学校教育が人間形成に果たす役割の大きさを顧慮して、理想的人間像を目指す教育目標「規律、勤労、礼儀」の三徳目を校是として掲げた。そして、人間形成において率先して道徳教育を取り入れ、規律節制と礼



■夜遅くまで執務する軍造先生



■創立当時の福原学園正門



■整地する前の学園用地

讓にして進取的な勤労精神とその実践こそが、人間の根基を培うものであり、社会に通じる生活の要諦であるという教育を開始した。

運動場確保のための拡張工事では、教師や生徒とともに福原校長が率先してつるはしを握り、トロッコを押すという、まさに師弟一体と勤労奉仕の尊さを実感する実践教育があった。

組織変更を行い 「学校法人福原学園」へ

ちょうどこの年、昭和二十五年に私立学校法が施行され、法人格の組織変更も同時に進化した。この法律の趣旨は、従来、官学（公立）に偏っていた方針を改め、公立・私立の差別をなくすという民主教育を取り入れた画期的な内容だった。

私立学校法では、私学審議会を設置や学校法人制度の採択も規定されている。この法律の整備によって、国の設置する学校は国立、地方公共団体が設置する学校は公立、学校法人が設ける学校は私立と呼ばれるようになる。

福原学園も、昭和二十六年、「財団法人」から「学校法人福原学園」へと組織変更しに踏み切った。これを機に、同年に普通科を設け、男子部と女子部の男女併学の新制高校に衣替えした。

生徒数の増加や将来の学園構想を考え、

昭和二十九年には学園に隣接した若松市浅川（現北九州市若松区）の原野九万三百八十七平方メートルの用地を買収。同年十月には学園最初の鉄筋コンクリート造り、三階建ての建築工事に着手した。翌三十年十一月に校舎は竣工。緑に映えてそびえ立つ白亜の殿堂は、学園構想具体化のスタートを記念して「桃園館」と命名された。

時代が急速に変化する中、福原学園にもようやく学園発展の兆しが見えてきた。入学者が急増し、社会の要請もあつて、昭和二十九年、普通科のほかに商業科課程を増設。それに伴い、男子部は普通・商業科、女子部は普通・商業・家庭科と男女別に分離された。同年、高校へ入学できない女子に家庭専門の教育を行うため、一力年の福原女学院を開校し、教育の機会均等を図った。

総合学園として 地域社会の要請に対応

福原軍造理事長は、時勢の推移により八幡女子専門学校（昭和三十年、福原女学院の昇格改称による）を廃止。地域社会の要請によって、真の女性の高等教育の理想を実現するため、昭和三十五年四月、九州女子短期大学（家政科）を開学し、推されて同学長兼教授に就任した。

一方、新生日本の将来が託されている

民主的、文化的、平和的な福祉国家建設への発展過程にあつては、国民の基本的な教育の要求と知的要求に応え得る新制大学の理念追求がなされねばならない。それは時代の流れであると同時に、真の人間の開発を目指す学園教育の理想でもあつた。そこで昭和三十七年四月、九州女子大学（家政学部家政学科）を開学。建学精神に基づく学風醸成の中核として、福原理事長が同学長兼教授に就任した。

九州女子大学及び九州女子短期大学は、四年または二年間の大学生活を通じ、深い専門の知識技能を修め、徳性を高め、社会の福祉及び健全な家庭生活に貢献し得る、誠実かつ情操豊かな女性の育成を使命とする。そのため、建学精神のもと、一般教養教育を専門教育同様に重視し、思慮ある女性としての能力や自立する能力の養成を期する。

すでに八幡西高等学校（昭和三十年、福原高等学校を改称）には家庭科、商業科、工業科を設けて単線化した新学制の弊を改め、生徒の能力に応じた個性伸長の教育を図り、進路の多様化と教育の機会均等を期したが、昭和三十六年四月、女子部を分離して八幡女子高等学校を新たに開校。翌年四月、九州女子大学の開学と併せて、九州女子大学附属高等学校と改称し、高校と大学の一連性を強化する教育体制をした。

さらに福原先生は、自らの体験から、人間形成は母体に始まり、幼児期の教育に



■八幡西高校の人文字（昭和32年）



■昭和30年11月に建設された桃園館



■創立当時の学園校舎と運動場の整地

学園創設から総合学園へ

よつて性格付けられることを信じ、幼児教育のため、昭和二十七年に九州女子大学附属折尾幼稚園、昭和四十五年九州女子大学附属自由ヶ丘幼稚園を開園した。

一、健康で安全な教育をする
二、道徳性の芽ばえを養う
三、集団生活を通して、正しい社会的態度を身につけさせる
四、表現活動を通して、創造性を育て豊かな情操を養う

五、科学的なものの見方・考え方の芽ばえを培う
六、正しい言葉・美しい言葉の指導をする

七、家庭及び小学校との関連性を考慮する

の七項目を掲げた。

これにより、ようやく幼稚園から大学までの一貫教育が実現した。

やがて、第一次ベビーブーム世代が高校進学を迎えるようになると、西校附属校ともに在学生が急増。校地拡張工事に取り組む。また、女子大には文学部(国文学科・英文学科)を増設(昭和四十年)、短大には看護教育科(昭和二十七年)、体育科(昭和二十八年)、英文科(昭和二十九年)、初等教育科(昭和四十二年)、音楽科(昭和四十四年)と、時勢や社会的要請に応じて増科を図った。

昭和四十年四月、男女共学の九州共立大学(経済学部経済学科)を開学。福原理事長が同学長に就任した。

本学園は、幼稚園から大学まで一貫して、「規律」「勤労」「礼儀」の三つの徳目を掲げ、その徹底によつて知性を深め、徳性を高め、豊かな情操の涵養による調和のとれた、社会に奉仕できる人間形成を目指す。その中で、大学教育は人格の形成を基盤として真の人間性の開発に努めることである。大学生には大きく自由が認められているだけに、自由に伴う責任と義務を完遂しなければならぬと説いた。

そして、建学精神の一貫性ある学風確立のためには、自分で自分を律するといふ「自律の精神」の培いが必要であるとともに、自らに内在する天性の声を知つて、その教えを行うこと、すなわち先人が教えている「処行」が大切である。「自律自制」以て事に処し、善を行う」という「自律処行」こそ人間教育の基調であり、また大学教育の要諦であるとして、「自律処行」を学是として明示した。昭和四十五年三月、九州共立大学第一期卒業生が大学正門(現大学東門)に「自律処行」の碑を建立している。

「自律処行」は、福原先生の豊かな教育体験より創造された箴言である。その語義は深遠で、学園に学ぶ者が生涯を通じて生活体験の中で味得すべき人生訓でもある。学園の建学精神は、「ルールを守る」「ベストを尽くす」「チームワークを作る」「相手に敬意を払う」という日常実践の要目で表すことができ、普遍的真理が蔵されている。

翌年には経済学部経済学科の夜間部(一部)を増設。昭和四十二年四月、北九州市の工業界の要請に応え、工学部(機械工学科・電気工学科・土木工学科・建築学科)を増設した。翌年の経済学部経営学科の増設を機に、教育研究の拡充整備の促進を図り、後に工学部に開発学科と環境化学科を増設した(昭和五十四年)。

九州共立大学では、経済学部は実学教育に重点を置き、工学部は実験・実習を重視した教育を特色としている。

試練の時を迎え 学園の運営体制を刷新

その後、学園創立三十周年を迎えた昭和五十二年ごろには短大の設置基準が大幅に緩和され、独自のカリキュラムによる特殊性を打ち出すことが可能になった。

そこで、本学園では、福原学長の指導指揮のもと、従来の知識伝達教育を見直して実践教育に重点を置く指導方針を徹底。その結果、教員採用試験の合格率では短大で九州トップ、やがては全国一の輝かしい実績を残すこととなったのである。

九州女子短大の名声は全国に知れ渡り、志願者数は急増。この時期、キャンパス内には活気が満ちあふれ、学生たちの表情も輝いていた。

学園経営は上昇気流に乗っていたが、躍進を続ける九州女子短大に落とし穴が待ち受けていた。いわゆる補助金停止事件



■昭和46年当時の学園全景



■自由ヶ丘幼稚園



■開園当時の折尾幼稚園

である。

補助金を受ける基礎資料として、日本私学振興財団へ報告している中で、短大の学生数を過去数年間にわたり、過少報告していたことが明らかとなり、厳しい処分を受ける結果となった。昭和五十九年十二月に、文部省からは、関係者の責任を明確にし、運営体制を刷新することなど五項目の改善指導を受けた。また、幼稚園、高校、大学の国や県からの補助金が全面支給停止、過去に支給された補助金の返還命令を受けた。

この事態に対して、理事長を始め理事、監事、評議員は昭和六十年三月三十一日をもって総退陣することにより、その責任を負う決定がなされた。昭和五十九年十二月三十一日のことである。

その後、刷新委員会が設けられて新役員人事が行われ、昭和六十年四月、松尾四郎理事長ら新役員、評議員により新たな学園経営がスタートした。

建学の理想を追い求めた 八十六年の生涯

福原学園建学の理想は、日本の教育界の発展にも及び。福原先生は、学園の建学の精神の具現化に精進を重ね、学園の充実発展に尽力されるのみならず、教育界の発展のため、福岡県私立中・高等学校協会役員をはじめ、県私立学校審議会・福祉会

振興会などの役職を兼任。昭和二十七年以降は、日本私立大学協会(副会長・九州支部長)、日本私立短期大学協会(常任理事・九州支部長)、全国私立学校連合会・審議会等の役職も務めている。

こうした長年の教育に対する功績により、昭和四十一年に福岡県知事、北九州市長から教育功労者表彰、昭和四十七年に全国日本学士会より学術教育功績賞を受けた。さらに、同年十一月には官公私立学振興の教育功労により勲三等旭日中綬章を受章。この栄誉・功績を顕彰して銅像が建立され、昭和四十八年十一月三日、銅像除幕式が盛大に挙行された。

建学の心・福原先生は、スポーツ万能、特に柔道は範士十段の栄位にあり、文武両道の練達の士であった。しかし、昭和六十二年ごろから足の衰えが目立ち、外出を控えるようになり、翌六十二年十一月十七日、八十六歳の生涯を閉じた。

天与の教育者として生涯を全うした福原先生の学園葬には、政・官・財の各界の方々、学園内外の教育関係者等、多数の方々が参列され、福原先生との別れを惜しまれた。

創設者福原先生の功績を称え、平成七年に竣工した法人棟「耕雲館」の一階に「福原軍造先生記念ホール」が設置されている。創設当時の記念の品々が展示され、建学の精神を語りかけている。



■国際武道院総合武道大会で模範演技を行う軍造先生 (昭和58年8月)



■勲三等旭日中綬章を受章 (昭和47年11月)



■福原軍造先生記念ホール



■福原軍造先生の逝去を悼む

混乱と復活

見えてきた光明

昭和六十三年度に、理事会の刷新と学園運営の改善努力が認められ、補助金が部分的に復活。平成四年度には完全復活した。

松尾理事長は、部分的にしる補助金の復活をもって、学園刷新の責務を終えたものとして、平成元年四月、任期満了により理事長を退任。五月に眞武友一氏が理事長に就任した。

新理事会は、補助金の復活を契機に、平成三年八月に開催された第一回学園総会において、「福原学園二十一世紀プラン(第一次五カ年計画)」を発表。学園が目指す方向性や戦略的課題と対応策を提示し、その具現化に向けて始動した。

改革と混乱、そして五十周年

眞武理事長は、平成四年三月の任期満了をもって理事長を退任。福原猛光理事長が理事長に就任した。創設者福原重造先生が昭和六十年に理事長を辞任して以来、七年を経た福原家による新体制の発足である。

新理事長は、平成三年に発表した「福原学園二十一世紀プラン」に基づいて、次々と改革事業を推進していった。

その第一は、創立五十周年を目標としたキャンパス再配置計画及びキャンパス

公園化構想における改革事業である。九州共立大学の「自由ヶ丘会館」(平成三年十一月)に続き、九州女子大学・九州女子短期大学の「耕学館」(平成六年三月)、キャンパス託児所(平成七年四月)、九州共立大学の体育館「耕技館」(平成七年三月)、法人棟の「耕雲館」(平成七年十一月)、統合高校の校舎「耕文館」(武耕館)(平成八年八月)、九州共立大学の「深耕館」(平成九年九月)等、施設設備の整備充実が矢継ぎ早に進められた。

キャンパス公園化構想については、学園と地続きの高尾団地(ボタ山)の安全確保と公共の有効利用を目指した関係行政機関等からの協力要請を受け、学園が設立した「自由ヶ丘教育振興財団」と協同して、学園と地域文化の向上のために生涯学習などに活用していくこととした。平成五年十一月に福原学園キャンパス公園化構想委員会が発足し、事業の推進に着手した。

第二は、教学運営における改革事業である。「開かれた学園」「世界に一番近い学園」づくりを目指し、三大学共同事業として、平成六年四月「健康教育研究センター」「生涯学習研究センター」及び「国際交流センター」、六月に「情報処理教育研究センター」、平成七年五月に「環境分析研究センター」の五つの研究センターが発足。同時に、海外の姉妹校が拡充され、平成八年八月現在で九力国十五大学と協定を結んだ。

教育改革の最大の課題であった、九州共立大学大学院の設置、九州女子大学と九州女子短期大学の統合改組、九州共立

大学八幡西高等学校と九州女子大学附属高等学校の統合及び中高一貫の附属中学校の設置については、後述する学園の用地取得事業等が問題となり、平成七年度に監督官庁と折衝する過程において文部省の行政指導を受けたため、すべての新規事業がストップしてしまった。

第三は、前述の二つの事業を実行するための用地取得等の管財計画である。福岡市への進出拠点の確保及び自動車教習所移転用地の購入計画を平成三年から進めていたが、そのことに関して平成五年十二月七日の読売新聞に問題報道された。

さらに、平成六年十二月に破綻した東京協和信用組合に学園が預金していたことが国会で取り上げられ、平成七年一月には週刊新潮に福岡進出用地取得に係わる三十八億円の疑惑記事が掲載された。また同月、北九州市から自動車教習所移転用地の取得に対する指導を受けた。

これらの諸問題について文部省と対応を協議するが、平成七年六月十九日、文部省に呼び出され、三項目(「法人の適正な運営」「土地取得等の適正処理」「諸規程の見直しと整備」)の行政指導を受けた。

行政指導を受けて教学の新規事業がすべてストップしてしまったことに対し、翌七月に学園運営の正常化を求める署名が提出された。平成九年三月には九州共立大学・九州女子大学・九州女子短期大学の教授会から、四月には両高等学校から、それぞれ理事会退陣要求書が提出



■ 耕雲館 (平成7年11月完成)



■ 耕学館 (平成6年3月完成)



■ 自由ヶ丘会館 (平成3年11月完成)

され、教学と経営の対立が加速していった。さらには、学長理事が刷新を求めたことから理事会内も分裂。両学長も交代し、学園は混乱状態に陥り、同年十月に日本私学振興財団から補助金の五〇％減額措置を受けた。

平成九年十二月十二日、学園創立五十年記念式典及び祝賀会を挙げる。記念碑「天空」の除幕式の後、自由ヶ丘会館での式典には、来賓や学園関係者など約四百人の出席があった。

重なる混乱からの脱却

平成九年十二月に、二十億円が海外に不正に流出されていた。翌十年四月、理事会は、本件に関し理事長から説明を受け、その対応を協議。同年五月十六日、資金の不正流出が新聞報道され、学園は騒然となる。

理事会では、流出した資金の穏便な回収を模索するが、事態が進展しないことから、理事長と理事の間で対応の相違が生じる。しかし、五月二十六日の理事会において、イギリス及びカナダへ流出した資金の保全・回収措置を行うことを承認。保全回収に向けた法的手続きに動き出すとともに、その対応状況について内外への説明及び文部省への報告に追われた。

同年十二月、学園の不祥事の責任をとるため、理事会の総退陣を決議。

今回の不祥事に対する制裁として、日

本私学振興財団から平成十年度の補助金七五％の減額という、さらに厳しい処分を受けた。

平成十一年六月四日、安藤延男氏を理事長とする新理事会が発足。法人の経営体制が完全に刷新された。

新理事会は、文部省の行政指導への対応として、まず、学園運営の正常化のために、自動車教習所移転用地に係わる二十五億円の開発協力金問題と二十億円の海外不正流出問題に関する調査委員会を設置。同委員会の調査報告に基づいて関係者の不正行為を追及し、損害賠償等の法的措置を講じるとともに、学園内関係者に対して懲戒解雇を含む懲戒処分を行った。

次に、学園運営に関して、大学及び短期大学の学長人事を刷新。専務理事制を廃止して常勤の理事の体制を一新したほか、理事長直轄の内部監査室を設置して内部監査機能の強化、財務情報の開示等により、運営体制の刷新と運営の適正化を図った。また、業務管理の改善を図るため、就業規則をはじめとする諸規程の改定及び新たな規程等の制定を行った。

さらに、前理事会が進めてきた「学園キャンパス公園化構想」事業については、完成までに百億円以上の資金が必要であり、今日の財政事情では、将来に亘って事業資金を措置することは不可能という判断から廃止を決議し、同委員会も解散。しかしながら、二十一世紀に向かって発展していくためには、組織・運営体制の整備及び教育研究の改善が求めら

れることから、新たに「キャンパス将来構想委員会」を設置した。

平成十二年一月二十八日、朗報が届く。新理事会が前年六月に発足して以来、精力的に取り組んできたことに對して、文部省指導三項目の改善努力が評価され、日本私学振興・共済事業団から平成十一年度の補助金一〇〇％交付の通知を受けた。

補助金の復活通知の翌月に開催された学園総会において、安藤理事長が、学園再興に向けたビジョンとして、停滞していた教育改革「九州共立大学大学院工学研究科の設置」「九州女子大学・九州女子短期大学の改組転換」「高等学校の統合」の認可申請、経営と教学の協同関係並びに教職員相互間の信頼関係の促進など六点を提示。神山常務理事が「福原学園の当面する問題点について」と題して、教育改革の推進、学園財政の基盤充実、自動車教習所の取り扱い、収益事業の拡大等の取り組みを訴えた。

そして、平成十二年度に入って宿願の教育組織の改革作業が整い、六月に九州共立大学大学院工学研究科の設置認可申請、七月には九州女子大学・九州女子短期大学の学科改組の申請及び高等学校の統合による新高等学校の設置第一次申請を行い、大きく立ち遅れていた教育改革に踏み出した。



■ 学園総会



■ 深耕館 (平成9年9月完成)



■ 耕文館・武耕館 (平成8年8月完成)

改革そして飛躍

動き始めた教育改革

平成十一年度の補助金全額復活を果たした理事会は、新規事業の解禁を受け、当面する課題の克服に着手した。

その第一として、到来する私学の冬の時代に備えて既に対応しておかなければならない教育改革が停滞していたため、その遅れを早期に取り戻そうと、大学においては平成十二年度に九州共立大学に大学院工学研究科修士課程を設置。また、九州女子大学と九州女子短期大学の改組転換により、家政学部人間生活学科と栄養学科を開設した(短大家政科と英文科は平成十四年三月、女子大家政学科、国文学科及び英文学科は平成十七年二月に廃科)。さらに、平成十四年度には高校統合による「自由ヶ丘高等学校」を開校した。

一方、設置当初から教学側とのコンセンサスに問題のあった三大学共同の研究センターについて、キャンパス将来構想委員会でそのあり方を見直す。健康教育研究センターは、平成十四年度をもって廃止し(平成十五年度に福原学園保健センターを設置)、国際交流センターも、平成十四年度をもって廃止。平成十五年度に福原学園国際交流・留学生センター(現三大学共同のセンターに変更)を設置。環境分析研究センターは、平成十六年度をもって廃止した。なお、生涯学習研究センター及び情報処理教育研究センターは、従来そのまま存続とした。

着々と進む 学園財政の建て直し

次に、新理事会として当面する課題克服の第二は、学園財政の建て直しである。平成という時代に入った頃には、近いうちに十八歳人口の減少によって私学の厳しい時代が到来することが既に予測されていた。そうした状況の中で、壮大な学園キャンパス公園化構想の達成に向けて、キャンパス再配置計画に基づき相次いで大型の建物を新築。また、移転用地取得事業等を進めたため、学園資金が急激に減少した。さらに、学生生徒等の減少による納付金収入の減少、国庫補助金の交付額減少等によって、学園の財政は急激に悪化していた。

理事会は、財政再建に向けて、平成十三年度に「財政再建のための構造改革プログラム」を策定。管理運営体制の改革を推進するとともに、人事管理制度の整備、定員管理制度の整備、設置校の再編・整理・統合、財政再建の推進、自己責任の確立、独立採算制確保という五つのプログラムに取り組みすることとした。

まず、設置校の構造改革に関して、平成十四年八月に再任された安藤理事長は、学校改革のゴールは「大学統合」による総合大学であると表明し、翌年に大学統合改組による総合大学化の大綱を提案した。総合大学の構想は、経済学部(学科改組)、工学部(学科改組)、人間科学部(新設、仮称)、文化学部(新設、仮称)、スポーツ健康科学部(新設、仮称)、薬学部(新設、仮称)の六学部からなるものであった。しかし、

大学統合に対する関係者の合意形成はなかなか進展しなかった。また、学園として永年の夢であった薬学部の設置に関しては、全国規模での薬学部の乱立の動きや、薬剤師養成のための教育年限の六年制化により、学生確保のリスクが将来的に予想された。さらには、本大綱の実施には高額の設置経費が必要であった。結果として、本計画は頓挫した。

平成十六年一月に安藤理事長が退任し、後任の理事長に原久雄理事長が就任。大綱の取り扱いについては、大学統合は長期課題に位置づけ、薬学部設置は棚上げ、スポーツ健康科学部の設置は白紙に戻して検討することとした。

そこで、九州共立大学では、平成十六年度からスポーツ系学部の設置に着手。翌十七年にスポーツ学部スポーツ学科の設置を申請し、認可され、平成十八年四月に開設した。このスポーツ学部は、昭和四十二年の工学部設置以来の新設となる。また、工学部の学科改組は、大綱の改組案を基にして平成十六年度に二つの学科設置を届出し、平成十七年度にメカエレクトロニクス学科と情報学科を開設した。

一方、九州女子大学においては、大綱の二学部改組案を見直して、平成十六年度に文学部改組による人間科学部(人間文学部、人間発達学科)の設置を届出し、平成十七年度に開設した。

次に、学園の財政に関しては、高い人件費が財政を圧迫しているため、教職員の適正数化、事務組織のポスト削減、定期昇給や賞与の見直し、新規採用者の契約年俸制の導入等による人件費の削減を図ってきた。



■自動車教習所を分離独立



■自由ヶ丘高等学校第1回入学式



■大学院設置の認可を受ける

さらに、採算的に問題のある部門の整理のため、学園内託児所「すくすくハウス」を閉所（平成十五年三月）、自動車教習所を株式会社化（自由ヶ丘）して分離（平成十六年四月）、九州女子短期大学の音楽科を廃科（平成十七年三月）、九州女子大学の別科日本語研修課程を廃止（平成十八年九月）。

他方、収入の確保策として、金融資産の運用や学園三〇%出資の「共立振興産業有限会社」を設置し、収益事業の展開による外部資金の確保を開始した。

加えて、ガバナンスの改革に関し、平成十五年度に理事数及び評議員数を増員して管理運営体制の強化を図った。

平成十七年度には、副理事長を設置することとし、福原弘之理事長が平成十七年四月から副理事長に就任した。そして、私立学校法の大幅な改正に伴う寄附行為の一部変更において、副理事長の設置を規定するほか、寄附行為の施行に関する必要な事項を規定するために、福原学園寄附行為施行細則を制定。平成十九年度には、ガバナンス機能強化のため、二号理事（評議員の中から選任される理事）の選任方法を評議員会選任から理事会選任へ変更した。

また、学園の運営や改革を推進するため、平成十六年度に経営戦略会議を設置。学園の重要な事案に関する協議機関として機能している。平成十七年度には副理事長直轄の改革支援室（現：経営企画本部改革推進室）を設置し、経営戦略会議の運営・決定事項を円滑かつ効率的に推進する役割を担っている。

その他、従来所属ごとに個別に行っていた業務の中で非効率的なもの（学生募集、

教員の任用等）は、学園で一元管理するように組織的な整備を図ってきた。

福原副理事長が 理事長に就任

平成十六年一月に就任した原理事長は、学園改革の建て直しを推進してきたが、健康上の理由から理事長を退任。平成十九年三月二十二日、後任に福原弘之副理事長が理事長に就任した。くしくも平成四年の福原家への理事長交代と同じく、七年を経ての福原家への体制復帰である。

福原弘之理事長は、就任にあたり、建学の原点に戻って、創設者福原軍造先生の追求した「教員が全人格を注いで行う教育」をより堅固なものとし、教育組織を全面的に見直し、社会のニーズに見合った組織への再構築を図ること、そのためには教員は教育研究に専念し、教育改革は事務局が中心となっていく体制へ漸次移行すること、それを可能とするためには有能な人材を適材適所で積極的に登用すること等、学園改革の所信を述べ、建学の精神「自律処行」の具現化の継承に邁進していくことを表明した。

折りしも、理事長就任の年が学園創立六十周年を迎える記念の年にあたり、理事長を委員長とする「福原学園創立六十周年記念事業委員会」を設置。「建学の原点に戻る」を合言葉に、記念式典及び祝賀会、記念誌・DVDの発刊、記念トークショー、冠行事を企画・推進中である。



■理事長就任祝賀会



■理事長就任のあいさつ記事（Fジャーナルより）



■60周年記念作品のDVDとVHS



■スポーツ学部開設記念式典



■第3種公認の陸上競技場

この七年の エポッククローズアップ

〔法人〕

学園が一丸の体制へ、 進む管理運営・機構の改革

平成十六年四月一日、理事長のもとに「福原学園経営戦略会議」を設置し、それをサポートするスタッフとして理事長直轄の経営企画本部学園構想推進室(平成十七年五月、副理事長直轄の経営企画本部改革支援室に、平成十八年四月からは理事長・副理事長直轄の経営企画本部改革推進室に改編)、並びに大学改革プランナーを配した。また、支出の抑制・人件費の削減を図る構造への変革を継続している。さらに、大学・短大で個別に行ってきた学生募集や教員人事業務を見直し、学園として一元的に業務管理するように組織的整備を図った。

自動車教習所を分離独立

自動車教習所は昭和四十一年に開所したが、十八歳人口の減少により大幅なマイナス経営に陥ったため、学園から分離し独立採算により存続させることとなる。平成十六年四月二十七日、資本金一千万円(学園が五〇・五%出資)の「株式会社自由ヶ丘」を設立した。

故福原軍造先生の十七回忌法要

平成十六年十月十六日、学園創設者故福原軍造先生の十七回忌法要が執り行

れ、故人に縁のある方々、学園関係者、生徒など約四百名が参列。故人の肉声が収録されたVTRを放映し、在りし日の故人の偉業を偲んだ。

福原理事長がスポーツ界の発展に尽力

福原理事長は、平成十七年度から福岡県体協協会の会長及び全日本社会人人体操競技連盟の副会長の役職を快諾。スポーツ界の発展に力を尽くしている。

〔九州共立大学〕

念願の大学院工学研究科を設置

九共大の積年の夢であった大学院工学研究科修士課程を、平成十三年四月に設置した。一年後の平成十五年四月には、博士後期課程を設置。これに併せて、従前の修士課程を博士前期課程と改めた。

総合研究所を開所

平成十三年四月、工学部と経済学部の両部門からなる総合研究所が開所した。二十一世紀型の産学官連携の研究を目指すとともに、技術移転の推進を支援する。

学力のステップアップ、 学習支援センターを開設

学生の学習や生活全般に関する悩み等に、大学として組織的に対応するため、平成十五年五月に学習支援センターを開所。学力ステップアップ講座、チュータ活動等を実施中。

四十二年ぶり新学部 「スポーツ学部」を開設

短大の体育科を発展的に改組転換して、平成十八年四月にスポーツ学部を開設(短大体育科は同年度で廃科)。これは、昭和四十二年の工学部設置以来、学園内で実に四十二年ぶりの新学部設置であった。施設は、研究室、教授会室、講義室、約八〇〇平方メートルのトレーニング室、リフレックシブコーナーなどを備えたA館(旧第五号舎解体後、新築)、講義室、演習室、フルAV機器を設けた三〇〇人収容の大講義室等を備えたB館(旧第八号舎の全面改修)、日本陸連による三種公認を得た全天候型四〇〇メートルトラックの陸上競技場及びハンドボール場を整備。本学園創立の教育方針は、「健康を根とし、徳性を幹とし、その枝にスポーツの花を咲かせ、學術の美果が実るような美しい樹を育てること」にあり、このスポーツ学部は、まさにスポーツを通して建学精神を体し、知徳体を兼ね備えた望ましい人間形成を目指す実践教育の場である。開設初年から入学志願者が多く、社会の要請に因應するため、平成十九年度に入学定員を二百名から二百五十名に増員した。

役目を果たした経済学部二部経済学科を 募集停止・廃部・廃科へ

昭和四十一年に増設した経済学部二部経済学科(夜間部)は、時代の役割を果たしたとして平成十五年度に募集停止。平成十八年度をもって廃部・廃科し、四十一年の歴史を閉じた。

トピックス1

九共大体操競技部 中野大輔選手が

アテネオリンピックで金メダル獲得

二〇〇四年第二十八回オリンピック・アテネ大会において、日本が体操男子団体総合で優勝し、九共大体操競技部の中野大輔選手が、日本代表選手の一員として金メダルを受賞。

同年九月二十四日(金)の金メダル受賞祝賀会に約五百五十名が集い、ロザンゼルスオリンピック・金メダリストの森末慎二氏がお祝いのメッセージを送った。



トピックス2

陸上競技部宇佐波良子さんが 全国大会で準優勝

平成十九年八月八日(金)〜十日(日)開催の「天皇賜杯 第七十六回日本学生陸上競技対抗選手権大会」において九共大スポーツ学部一年生、陸上競技部の宇佐波良子さん(自由ヶ丘高校出身)が女子走幅跳びで準優勝。六月二十九日(金)〜七月一日(日)の「第九十一回日本陸上競技選手権大会」に出場。



社会に対応すべく工学部を改組、しかし…

全国的に工学系の大学入学者数が減少している中、変化する社会ニーズに対応するため、平成十七年度に工学部を改組。また、学科の名称変更による教育内容の改革を行ってきたが、入学定員の未充足に歯止めをかけることができず、やむなく平成十九年度から環境サイエンス学科及び生命物質化学科の募集を停止し、平成二十年年度から残り四学科の募集停止を英断するに至った。

平成十九年度現代GPに選定される

平成十九年度の現代的教育ニーズ取組支援プログラムに申請した「生涯キャリア開発型教育システムの構築～人的ネットワークを活用したCPNavigationによる生涯キャリア支援～」が選定された。これは、先輩学生、卒業生、教職員、地域・企業の人々をキャリアナビゲーターとして登録し、学生へキャリア支援を行いつつ、同時に自身のキャリアを確認しながら自己理解・他者理解、問題解決能力を獲得し、生涯に亘って自身のキャリア形成を見つめ直す仕組み。

【九州女子大学・九州女子短期大学】

女子大の二学部と短大の二学科を改組転換

女性の高学歴志向や社会的ニーズの変化に対応して、女子大と短大に設置された家政分野と英文学分野を平成十三年四

月に改組転換した(短大二学科の四大化)。

短大初等教育科に保育士課程を設置、二免一資格を同時取得可能に

初等教育科は、平成十四年度に保育士養成指定校の指定を申請、認可されて、平成十五年度からは小学校教諭免許状、幼稚園教諭免許状に加え、保育士の資格が取得できるようになった。

女子大が大学基準協会の正会員になる

かねてより大学基準協会への加盟を申請していた女子大は、平成十五年四月一日付けで正会員への加盟・登録を受ける。これにより大学として質的に適切な水準を維持していることが評価された。

経営的視点から学科等を廃止

昭和四十四年に設置された短大音楽科は、二年間の音楽教育に対する社会的ニーズが変化してきたため、平成十六年度に募集停止、同年度をもって三十六年の歴史に幕を閉じた。また、平成六年に設置された女子大の別科日本語研修課程は、受講生の減少が続いたため、平成十七年十月一日をもって募集を停止。翌十八年九月三十日に廃止した。

心のケア、カウンセリング

『心の相談室』を設置

学生の心のケアを行うために、平成十年度から保健センター(九共大内に設置)にカウンセラーを配置していたが、相談者数の増加や学生の利便性を考慮し、平成

十六年度から女子大・短大にカウンセリング室を開設した。

文学部を改組して人間科学部を開設

豊かな教養・人間性並びに人間の発達科学及び文化関連の諸科学領域における高度な専門知識を備えた有為な人材の養成を目的に、平成十七年度に文学部を改組して、人間科学部人間文化学科及び人間発達学科を開設。翌十八年度から人間発達学科に保育士課程を設置した。

短大体育科が平成十七年度特色GPに採択される

短大体育科の「地域スポーツ活動支援を通じた指導者育成～スポーツキョウジヨタイ(救助隊/九女体)～」が、平成十七年度の「特色ある大学教育支援プログラム」(特色GP)に採択。体育科の教育目標「地域社会に貢献できる健康・運動にかかわる指導者の育成」に取り組んできた成果が高く評価された。

【自由ヶ丘高等学校】

自由ヶ丘高校を開校

平成十四年四月一日、かねてから準備を進めてきた九共大八幡西高校と女子大附属高校の統合が実現し、男女共学(看護科を除く)の自由ヶ丘高校が開校した。普通科、生活文化科、看護科及び自動車科の四学科構成で、普通科には情報コースを新設(商業科は募集停止)。オリンピック選手を輩出してきた清風学園から迎えた

トピックス3

女子大、大迫正一准教授の著書

『えんびつで奥の細道』がベストセラー、大きな反響

女子大人間科学部人間文化学科の大迫正一准教授(書道家、著者名大迫閑歩)の著書『えんびつで奥の細道』は、書家が手書きした部分の芭蕉の言葉をひと文字ひと文字、丁寧にえんびつでなぞっていくながら読み進め、五十日で芭蕉の旅を追体験するというもの。平成十八年一月発行、さまざまなメディアで取り上げられ、同年五月の単行本ベストセラー第一位になる。



トピックス4

短大卒業生、金谷梨絵さんの『もしもキミが。』

『今でもキミを。』が話題に

短大初等教育科の卒業生、金谷梨絵さん(著者名・凜)が執筆した『もしもキミが。』(平成十八年十二月発行)は、ケータイで読む小説を書籍化したもので、日本中の女子高生が「運命の恋」に号泣。テレビや雑誌で話題となり、続編『今でもキミを。』も書籍化された(平成十九年五月発行)。



改革そして飛躍

井上応順校長は、「新しい学校創り」を指す。

看護師養成、看護科と看護専攻科の五年一貫教育へ

保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正に伴い、看護科と看護専攻科において五年一貫による看護師養成を行うことになった。

進学校を目指し、普通科特進コースにスーパー特進クラスを設置

三年から五年で進学校とすることを学校方針として、平成十五年四月にスーパー特進クラスを設置した。同クラスは、九大、東大、京大、阪大、早稲田大、慶応大、同志社大等の難関国公立大学及び難関私立大学への現役合格を目標とし、学力向上の多くのバックアップシステムを持つ。

先を読み、教育組織の改革を進める

受験生のニーズが実業科から離れ、志願者数及び入学者数の減少が続いたため生活文化科と自動車科は平成十七年度から募集停止、翌十八年度をもって廃科とした。これに併せて、平成十七年四月、普通科に「栄養健康進学コース（入学定員四十名）」を新設したが、定員充足が厳しいため、平成十九年度から募集を停止した。

情報コース

IT特区指定校に認定される

初級システムアドミニストレータの国

家資格は合格率三〇%未満で、高校生の受験者は少なく、多くの専門知識を要求される。そこで、いかにして多くの合格者を出すかという対策会議を重ね、午前の部の試験が免除となるIT特区の指定の手続きに至った。高等学校でIT特区の指定を受けた学校はなく、全て手探りの状態だったが、平成十八年、認定の許可を得た。

旧九共大八幡西高校校舎に別れ

昭和三十五年十月に建設された旧八幡西高校校舎は、平成十四年の高校統合以来、空き校舎となっていたが、耐震強度の問題から再利用は不可能と判断し、平成十八年十二月二十五日に解体。学園草創期から総合学園への歩みを見てきた建物の姿が消えた。創設者福原軍造先生の胸像は今、自由ヶ丘高校敷地内に移設されている。

目覚しく伸びる難関大学への進学実績

平成十五年度にスーパー特進クラスを設置し進学校を目指す中で、開校四年目の卒業生から京大（理学部）をはじめ多数の難関大学への合格者を出した。開校五年目の平成十九年度大学入試では、九大、名古屋大、熊大、宮崎大（医学部）、早大、上智大他、前年度を大幅に上回る進学実績が得られ、学校方針に沿って進学校としての地盤が着実に確立しつつある。

「九州女子大学附属幼稚園」

未就園児に園を体験してもらおう

核家族化が進む今日、母親がいろいろな悩みを話し合い、また幼児が「幼稚園って楽しい」と思える場を提供しよう、折尾幼稚園では未就園児とその保護者を対象にした「親子ふれ合い教室」を、平成十三年度からスタート。自由ヶ丘幼稚園でも、平成十五年度から「わくわく保育」という名称で、同様の趣旨の行事を始めた。

満三歳児保育をスタート

福岡県では、平成十四年四月一日から、満三歳になった段階で幼稚園に随時、入園を認めることになった。これを受けて、折尾と自由ヶ丘の両幼稚園でも平成十五年四月一日から満三歳児保育をスタートした。

子育て支援施設を開設

平成十五年九月、旧学園内託児所を利用して自由ヶ丘幼稚園の子育て支援施設「すくすくハウス」を開設し、未就園児の保育を支援している。

トピック5

女子大、今村優さんが二〇〇七日本学生トリアスロン選手権観音寺大会で優勝

平成十九年八月二十六日（日）に、香川県で開催された二〇〇七日本学生トリアスロン選手権観音寺大会において人間科学部人間文化学科一年の今村優さんが女子個人総合で優勝。来年トルコで開催の世界大学選手権への出場権も獲得。



トピック6

自由ヶ丘高校陸上競技部の龍川希望さんインターハイ女子三千メートル競歩で準優勝

平成十九年八月に開催された「平成十九年度全国高等学校総合体育大会（二〇〇七青春・佐賀総体）」において自由ヶ丘高校陸上競技部の龍川希望さんが女子三千メートル競歩で準優勝。



トピック7

送迎にトーマス機関車が登場

平成十五年から自由ヶ丘幼稚園の送迎バスにトーマス機関車が登場し、一躍、園児の人氣者に。送迎のルートでも「一度乗ってみたい」と注目の的となっている。



福原学園関係諸団体の活躍

学園に關係する諸団体として、各設置校の在校生の保護者で組織される「後援会」、各設置校の卒業生で組織される「同窓会」、学園の発展振興を図る目的で地域の企業主の方々が結成された「福原学園協力会」等がある。

在校生の諸活動を支援する後援会

後援会は、昭和三十五年の短大の開学当時には既に組織されており、昭和四十年九共大が開学し総合学園へ発展しても、「福原学園後援会」として活動していた。その後、順次設置校ごとの後援会が発足した。後援会は、厚生施設に関する事業、保護者懇談会等の教育事業の援助、課外活動の支援、会員相互の親睦等の諸活動を行なっている。例えば、九共大後援会では、キャリアカウンセラーを配して学生相談を支援し、女子大・短大の後援会は、「国際感覚を備えた人材の育成」のために、短期海外研修の学生に対して報奨金を支援している。(海外研修報奨制度という)。



■キャリアカウンセラーによる相談



■平成19年度海外研修報奨制度表彰式

母校の発展を支援する同窓会

同窓会は、課外活動の支援、各種事業の支援など幅広い支援を行なっている。

九共大の同窓会「自由ヶ丘」は、福岡、北九州、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄、山口、愛媛に支部を組織している。自由ヶ丘は、九共大出身プロ野球選手の下、地元の小中学生を対象に「少年野球教室」を毎年開催し、社会貢献もしている。また、「九州共立大学出身プロ野球選手後援会」が平成十七年一月に発会し、毎年、「選手との集い」を開催し、選手との交流を深めている。今年には五百名を超える参加があった。



■少年野球教室

女子大・短大の同窓会「梅香会」は福岡、北九州東、北九州西、佐賀、大分、宮崎、熊本、鹿児島、沖縄、山口、広島に支部を組織している。梅香会は、毎年会報「しら梅」を発刊し、会員相互の連帯を深めている。昨年は、梅香会創立四十五周年記念を迎え、十一月四日にテレビなどで活躍中の金美鈴さんを招いて記念

講演会を開催した。

高校の同窓会「福峰会」は、九共大八幡西高校、女子大附属高校及び自由ヶ丘高校の卒業生で組織され、毎年「福峰会だより」を発刊している。また、文化スポーツ等に功労のあつた卒業生には入会式で福峰会功労賞を授与している。さらに、毎年、学園創設者福原軍造先生の墓参を主催し、故人を偲ぶとともに故人に恥じない一年を過ごすことを墓前に誓っている。



■梅香会創立45周年記念総会

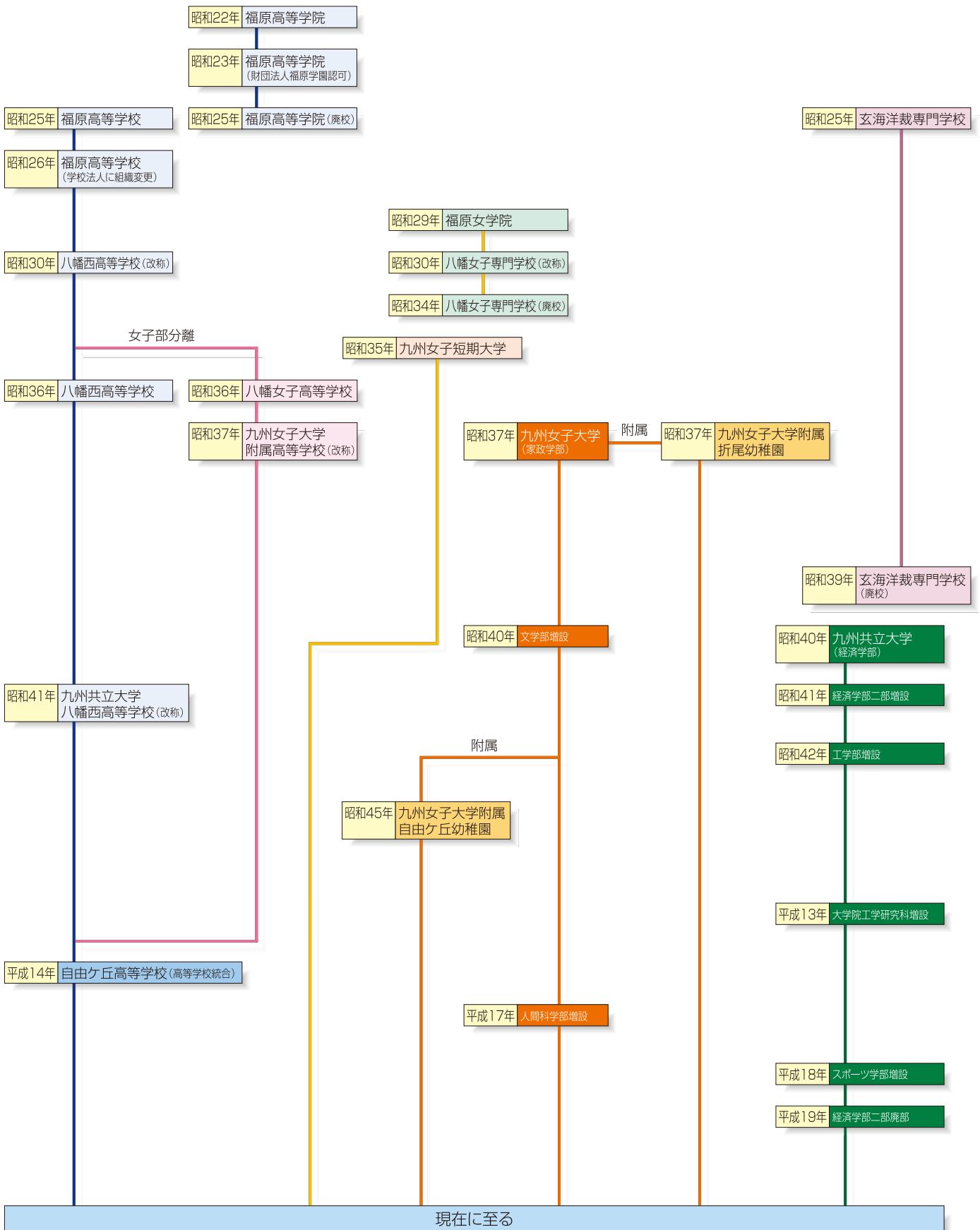


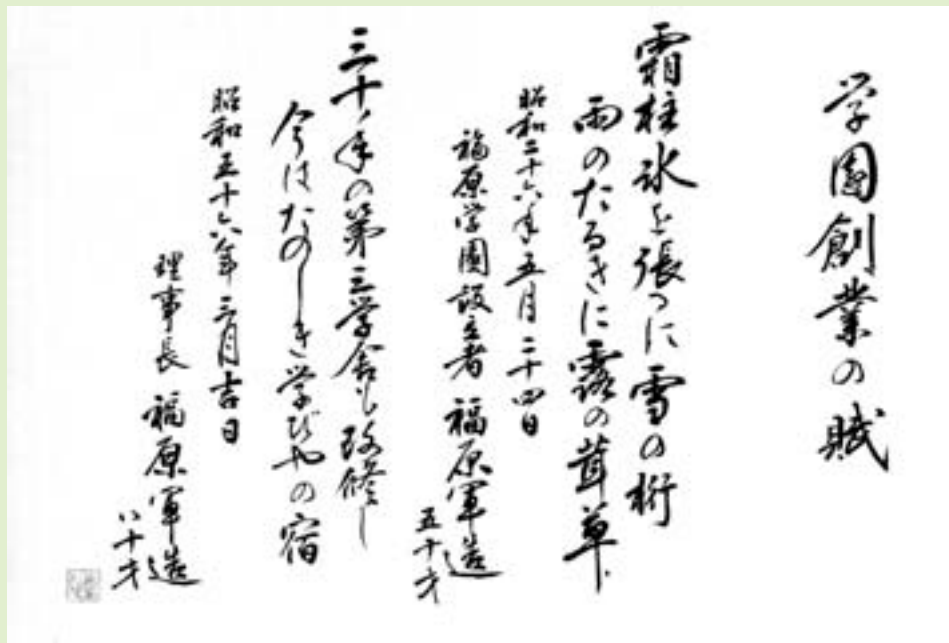
■福原軍造先生の墓参

学園を側面から支援する 地域企業の「福原学園協力会」

学園の発展は地域の発展に連なるといふ趣旨で昭和四十年四月に協力会が結成され、現在会員が百十余名に達し、学園行事その他学園の振興に常に協力いただいている。

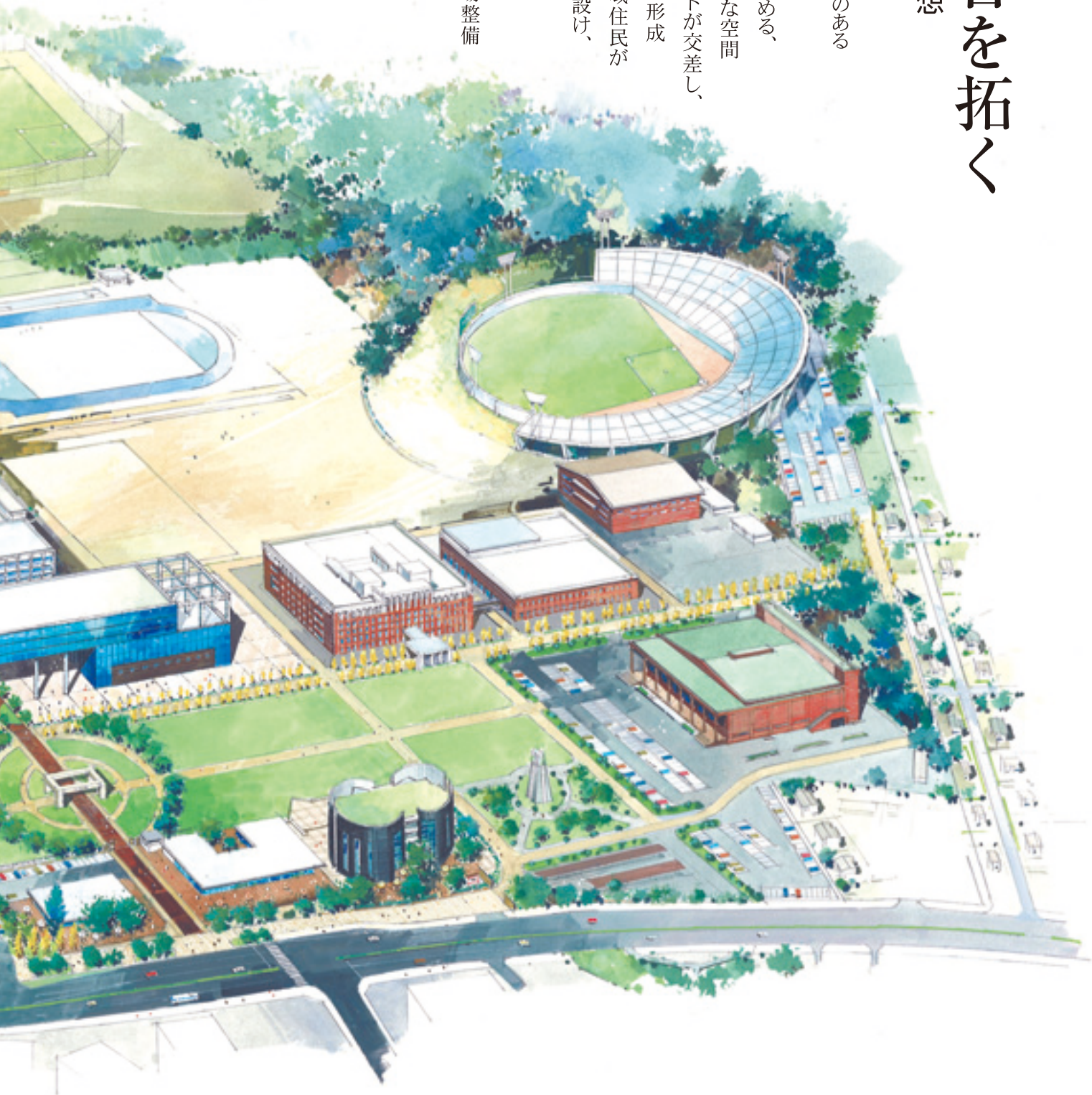
学園創立から現在までの学校の変遷





新たな明日を拓く 福原学園の近未来構想

- 緩やかな丘陵を活かした一体感のある
キャンパス配置
- やすらぎを創出し学習意欲を高める、
芝生と樹木の豊かな緑と開放的な空間
- 東西と南北のシンボルストリートが交差し、
学園のステイタスシンボル風景を形成
- 開かれた学園として、学生と地域住民が
共用するパブリックなスペースを設け、
地域との共生
- 環境にやさしいエコキャンパス
- 車社会に対応した適正な駐車場整備





学園グラビア



■スポーツ学部A館



■スポーツ学部A館トレーニングルーム



■陸上競技場



■図書館



■授業風景



■書籍販売

九州共立大学



■ 鶴鳴記念館



■ 憩いの広場



■ 学生食堂



■ 売店



■ 授業風景



■ 耕技館



■ 西第一学舎(大学本館)



■本館



■授業風景



■情報処理



■練成館（体育館）



■製図室



■臨床実習指導風景



■食品実験風景

九州女子大学・九州女子短期大学



■アメニティ広場



■売店



■学生食堂



■微古館(図書館)



■鶴泉寮



■耕学館

学園グラビア



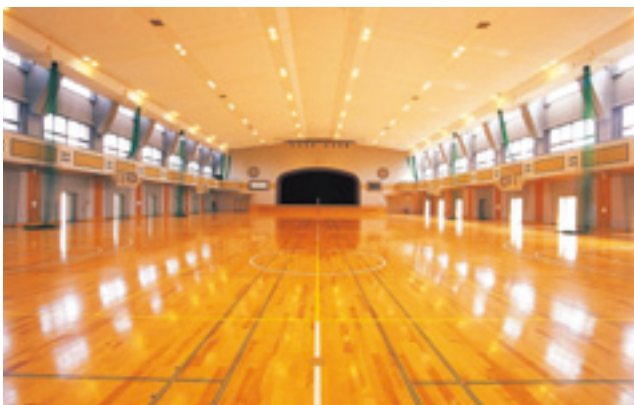
■正門～エントランス棟



■図書室



■音楽教室



■体育館



■食堂

自由ヶ丘高等学校



■普通科特別進学コース



■普通科進学コース



■普通科情報コース



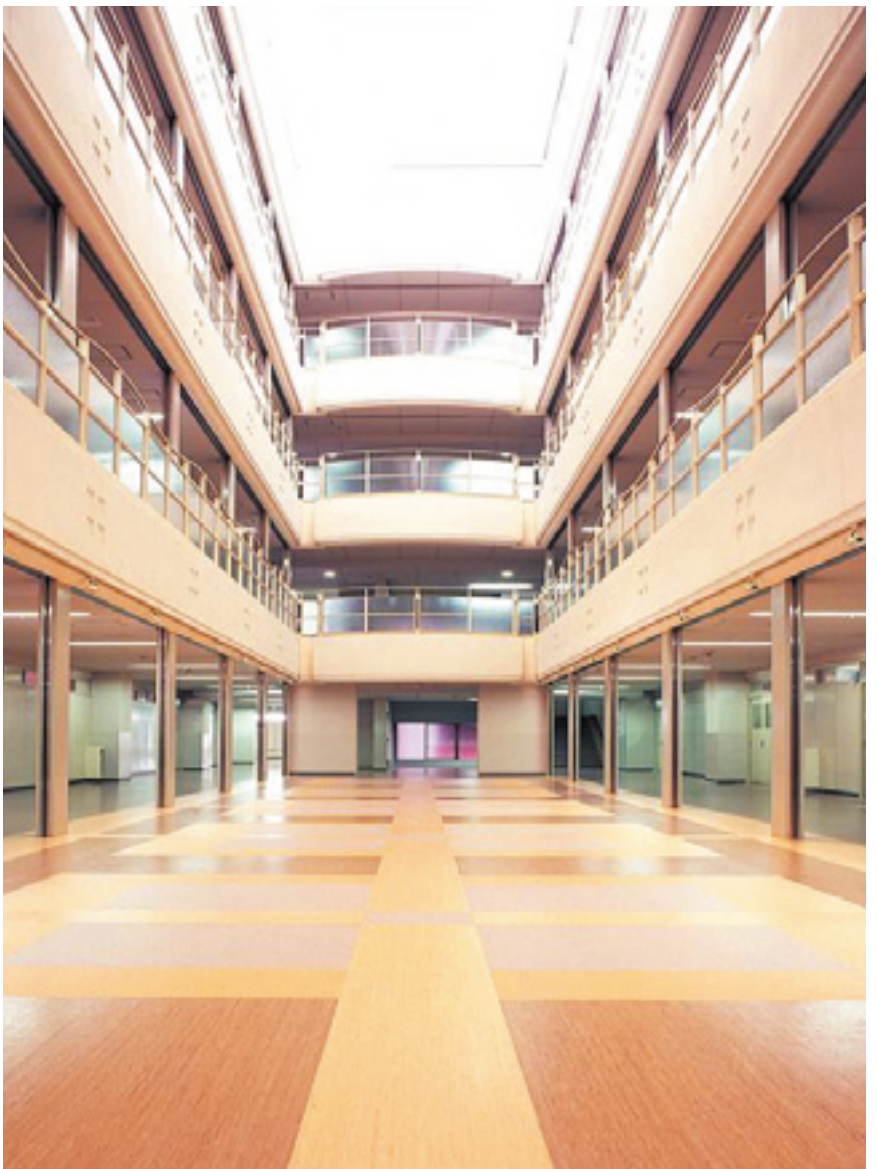
■普通科体育コース



■看護科



■中庭



■C棟3階吹き抜け

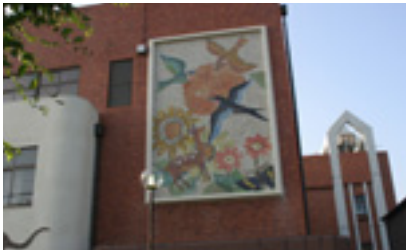
九州女子大学附属折尾幼稚園



■園内風景



■全景



■正門壁画



■納涼まつり



■川あそび



■運動会



■文化祭



■クリスマス会

九州女子大学附属自由ヶ丘幼稚園



■ 全景とトーマス号



■ すくすくハウス



■ 園内風景



■ 遠足



■ 文化祭



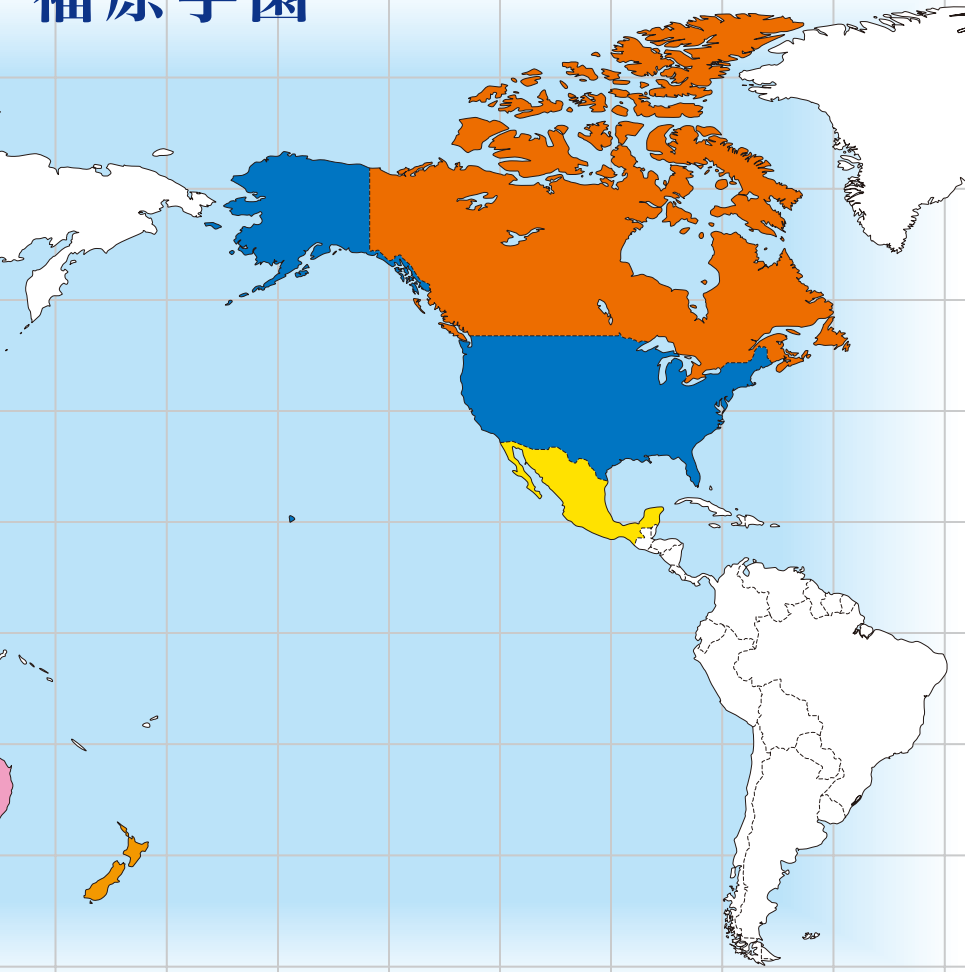
■ 園内風景



■ もちつき大会



■ 稲刈り体験



静宜大学(台湾)



上海水産大学(中国)



上海工商外国語職業学院(中国)



上海市甘泉外国語中学(中国)



東西学園 東西大学校 慶南情報大学(大韓民国)



華東師範大学(中国)



大連外国語学院(中国)



昌原専門大学(大韓民国)



中華女子学院(中国)



大連女子職業技術専修学院(中国)



大邱大学校(大韓民国)



長春市第八中学(中国)



中国国家外国專家局文教司(中国)



漢陽大学校(大韓民国)

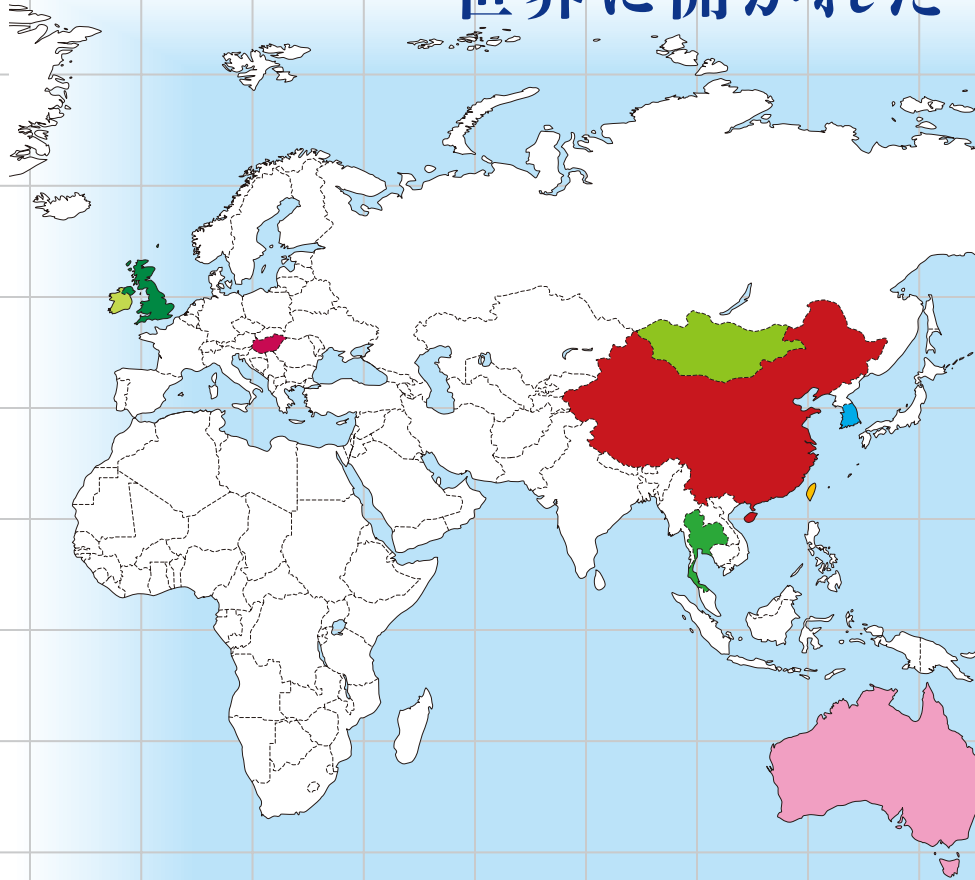


慶北専門大学(大韓民国)



湖南涉外经济学院(中国)

世界に開かれた



パシフィックルーザン大学 (アメリカ)



ハワイ大学全コミュニティカレッジ (アメリカ)



フリンダース大学 (オーストラリア)



ユニテックニュージーランド (ニュージーランド)



ペーチェ大学 (ハンガリー)



モンテレイ工科大学ケレタロ校 (メキシコ)



全南大学校 (大韓民国)



イセックビジネス大学 (メキシコ)



チェンマイ大学 (タイ)



リメリック大学 (アイルランド)



リジャイナ大学 (カナダ)



モンゴル国立人文大学 (モンゴル)



ウェールズ大学アバリストウイス校 (英国)



レッドリバー・カレッジ (カナダ)



モンゴル国立大学 (モンゴル)



九州共立大学学長

佐古 宣道

福原学園は創立六十周年を迎えました。

九州共立大学は、昭和四十年に経済学の単科大学として開学されました。昭和四十二年には工学部を増設し、続いて、大学院工学研究科（博士前期課程・博士後期課程）を設置し、平成十八年にはスポーツ学部を増設しました。

本学は、創設以来実学を重んじ社会に貢献しうる人材の育成を目指して、学是「自律処行」のもとで、教育研究に専念してきました。この間、約二万四千人の卒業生が巣立ち、今や社会の各界で活躍しています。この実績は、先達の理事長始め教職員、同窓会、関係者各位の並々ならぬご努力の賜物と敬意を表します。

本学の教育研究の重点課題については、大学の機能分化の観点に立つて、①幅広い職業人の養成 ②総合教養教育の充実 ③体育など特定専門分野の教育の推進 ④地域貢献および産学官連携推進に置いています。また、面倒見の良い大学を目指し、入学して良かった、学び甲斐があったと評価されるように、教育力の向上に懸命な努力を続けています。

ところで、国内での急激な少子化や高校生の理数系離れなどにより、平成二十年度から工学部での学生募集を停止するに止む無きに至りました。この際、建学の原点に立ち返り、今後の社会の要請を見極めながら新しい構想の学部を立ち上げるために、学園内での真摯な検討が進められているところです。

私たち教職員一同は、本学を取り巻く厳しい現状認識を高めながら、教育研究についての自己点検と評価を行ない、きめの細かい改善をさらに進めていきます。本年度、文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に申請していただきました「生涯キャリア開発型教育システムの構築」が採択され、幸先の良いスタートを切ることができました。

創立六十周年を期し、輝かしい歴史と伝統の灯を継承しながら、次の時代の要請にも応えうるよう、教職員一同は、叡智を傾けそれぞれの職責を十分に果たすべく決意を新たにしています。関係者各位の暖かいご支援とご鞭撻を切にお願いし、ご挨拶とします。



九州女子大学・九州女子短期大学学長

山崎 信行

福原学園は戦後間もない昭和二十二年に福原高等学院として創立し、爾来、幾多の社会変革の中で発展を遂げ本年六十周年という記念すべき年を迎えました。

九州女子短期大学は昭和三十五年に、また、九州女子大学は昭和三十七年に設置されました。両校は互いに密接な連携を保ちながら高等教育機関としての責務を果たし、これまでに、四万人近い優れた人材を世に送り出すまでに発展して参りました。この輝かしい成果は、創始者である福原軍造初代学長をはじめとする先達の理事長、教職員の教育に対する情熱とたゆまない努力、さらには同窓会、後援会、地域の皆様の暖かいご支援の賜物であると深く敬意を表するところであります。

大学を取り巻く環境の著しい変化の中で、九州女子大学と九州女子短期大学の両校は、社会の要望に応えるために大学改革に取り組むとともに、学是「自律処行」に則り、男女共同参画社会で活躍しうる強くてしなやかな女性の育成をめざして教育内容の充実に努めてまいりました。この間、平成十四年の学校教育法の一部改正に伴い、何れの大学においても第三者評価機関による評価が義務づけられるようになりました。このような状況下で九州女子大学は、平成十五年四月に大学基準協会の正会員となることが認められ、平成十九年度に同協会の認証評価を受けることとしました。一方、九州女子短期大学においては平成十七年四月に短期大学基準協会の正式会員として認められており、平成十九年度には大阪成蹊短期大学との間で第三回相互評価を実施することとしました。これらの評価が、より質の高い大学の構築へ向けて新しい一步を踏み出すための契機となるよう願う次第です。

学園創立六十周年を機に、九州女子大学と九州女子短期大学の両校は永年にわたって培われた伝統を継承しつつ、さらなる発展を目指して全学を挙げて取り組んでまいりますので、今後とも両校に対するご理解とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶といたします。



自由ヶ丘高等学校校長

井上 応順

『昔を語るか遠賀の流れ、宝庫 筑豊 扉開かん 福祉日本の希望讃えて 若人羽搏く 自由ヶ丘 あゝ其名燦たり 福原学園』(この歌詞は学園歌です。)

昭和二十二年に誕生した福原学園もすでに六十年の年月を閲歴し、このたび記念事業の一つとして久しく待望されていた学園史が刊行の運びになりましたことご同慶にたえません。

本学園が昭和、平成の二代におよぶ変遷と発展の足跡が貴重な記録として後世に伝えられると共に、その間、学園に学ばれた同窓生のいわば青春の譜が懐旧と共感のうちに甦り、更に二十一世紀の前進の指針として多くの示唆をあたえるであろうと思う時、誠に意義深いものを感じずにはおられません。この六十年史をひもとくとき過ぎし間に生起した様々な事象、それは嬉しいことであつたであろう。また悲しい出来事も起こつたであろうが、その場、その事に適正に対処された先輩諸賢のご苦勞を忍ばずにはおられないのであります。

この六十年史を披見していただく事によつて学園のたどつた茨の道を回想していただくと共に、この学園史が母校を愛する者の心の拠所となり、今後の限りない発展の礎となるように念願し、これからの学園の発展に一層のご指導、ご鞭撻がいただければ望外の幸せと存じます。

平成十四年に新生した本校におきましても、昭和二十五年に福原高等学校が開校して以来の校訓「規律」「勤勞」「礼儀」のもと、創設者の建学の精神を継承し、地域社会から信頼され、必要とされる学校に躍進すべく努力邁進し、学力の向上と常識を備えた二十一世紀のリーダーたる人物の育成を心掛けて参ります。旧高校の歴史と伝統を堅持しつつ、北九州に冠たる進学校を目指し精進努力する所存ですので、併せてご指導のほどお願い申し上げます、福原学園創立六十周年記念誌発刊に寄せる言葉といたします。



西暦(年)	月	学園の動き
1979(昭和54年)	4	九州共立大学工学部に開発学科と環境化学科を増設
1984(昭和59年)	12	学生数の過少報告等により文部省から運営体制の刷新等5項目の行政指導を受け、日本私学振興財団からは補助金の返還命令と補助金の交付停止を受ける
1985(昭和60年)	3	福原軍造理事長以下総辞任
	4	理事長に松尾四郎氏が就任
	4	福原軍造前理事長が名誉総長に就任
1988(昭和63年)	11	学園創設者福原軍造名誉総長が逝去、学園葬が行われる
1989(平成元年)	5	理事長松尾四郎氏が退任し、眞武友一氏が理事長に就任
	6	福原ツルヲ氏が名誉総長に就任
1990(平成2年)	11	福原ツルヲ名誉総長が勲四等宝冠章を受章
1991(平成3年)	8	福原学園第1回学園総会が開催され、「福原学園21世紀プラン(第1次5カ年計画)」を提案
1992(平成4年)	4	理事長眞武友一氏が退任し、福原猛光理事が理事長に就任
	4	九州女子大学附属高等学校の家庭科を生活文化科に名称変更
1994(平成6年)	4	九州女子大学に別科日本語研修課程が開講
1995(平成7年)	4	九州女子短期大学に専攻科を増設
	6	文部省から3項目の行政指導を受ける。このため教育改革の新規事業がすべて中止
1996(平成8年)	3	高等学校統合に向けた新校舎が竣工
1997(平成9年)	3	八幡西高等学校の商業科、機械科、電気科を廃科
	10	日本私学振興財団から補助金の50%減額通知
	12	学園創立50周年記念式典を挙げる
1999(平成11年)	1	日本私学振興財団から補助金の75%減額通知
	6	福原猛光理事長以下が引責総辞任し、安藤延男氏を理事長とする新体制が発足
2000(平成12年)	1	日本私立大学振興・共済事業団から平成11年度の補助金の100%交付の通知
	10	食堂、売店等の事業を分離し、共立振興産業有限会社を設立
2001(平成13年)	4	九州共立大学に大学院工学研究科修士課程を設置
	4	九州共立大学工学部電気工学科を電気電子情報工学科へ、開発学科を地域環境システム工学科へ名称変更
	4	九州女子大学家政学部を改組して人間生活学科と栄養学科を、文部学を改組して人間文化学科と人間発達学科を開設
2002(平成14年)	4	九州共立大学八幡西高等学校と九州女子大学附属高等学校を統合して、自由ヶ丘高等学校を開校
2003(平成15年)	4	九州共立大学大学院工学研究科に博士後期課程を増設、修士課程を博士前期課程へ名称変更
2004(平成16年)	1	安藤延男理事長が退任し、原久雄理事が理事長に就任
	3	自由ヶ丘高等学校の商業科を廃科
	4	自動車教習所を分離し、株式会社自由ヶ丘を設立
2005(平成17年)	3	九州女子短期大学の音楽科を廃科
	4	九州共立大学工学部機械工学科と電気電子情報工学科を改組してメカエレクトロニクス学科及び情報学科を開設
	4	九州共立大学工学部の土木工学科を都市システム工学科へ、地域環境システム工学科を環境サイエンス学科へ、環境化学科を生命物質化学科へ名称変更
	4	九州女子大学文学部を改組して人間科学部人間文化学科と人間発達学科を開設
2006(平成18年)	4	九州共立大学にスポーツ学部を増設
	9	九州女子大学の別科日本語研修課程を廃止
2007(平成19年)	3	原久雄理事長が退任し、福原弘之副理事長が理事長に就任
	3	九州共立大学経済学部二部を廃部
	3	自由ヶ丘高等学校の生活文化科と自動車科を廃科
	4	九州共立大学工学部の都市システム工学科を環境土木工学科へ名称変更

学園小年表

西暦(年)	月	学園の動き
1943(昭和18年)	1	私学建設用地として遠賀郡折尾町大字本城字大浦の原野を浅野セメント(株)より取得
1947(昭和22年)	3 4	第1期校舎が竣工 財団法人福原学園創立、福原高等学院の開校(理事長 福原軍造)
1950(昭和25年)	4 6	福原高等学院を廃止し、新学制に基づく福原高等学校を開校 玄海洋裁専門学校(宗像郡玄海町)を開校
1951(昭和26年)	3 4	財団法人福原学園を学校法人福原学園に組織変更 福原高等学校に普通科を増設(男子部を併設)
1954(昭和29年)	4 4	福原高等学校に商業科を増設 福原女学院を開校
1955(昭和30年)	11	福原高等学校を八幡西高等学校に、福原女学院を八幡女子専門学校に改称
1957(昭和32年)	11	福原学園創立10周年記念式典を挙げる
1958(昭和33年)	4	八幡西高等学校に工業科(機械科・電気科)を増設
1959(昭和34年)	9	八幡女子専門学校を廃止
1960(昭和35年)	4	九州女子短期大学(家政科)を開学
1961(昭和36年)	4	八幡西高等学校女子部を分離し、八幡女子高等学校を開校
1962(昭和37年)	4 4 4 4	九州女子大学(家政学部)を開学 九州女子短期大学に養護教育科を増設 八幡女子高等学校を九州女子大学附属高等学校に改称 九州女子大学附属折尾幼稚園を開園
1963(昭和38年)	4	九州女子短期大学に体育科を増設
1964(昭和39年)	3 4	玄海洋裁専門学校を廃止 九州女子短期大学に英文科を増設
1965(昭和40年)	4 4 4	九州共立大学(経済学部)を開学 九州女子大学に文学部を増設 八幡西高等学校工業科を機械科・自動車科・電気科に分離
1966(昭和41年)	4 4 4 11	九州共立大学に経済学部二部を増設 九州女子短期大学に初等教育科を増設 八幡西高等学校を九州共立大学八幡西高等学校に改称 八幡西高等学校自動車科の実習施設として自動車教習所を開設
1967(昭和42年)	4 11	九州共立大学に工学部を増設 学園創立20周年記念式典を挙げる
1968(昭和43年)	4 4	九州共立大学経済学部に経営学科を増設 九州女子大学家政学部家政学科を家政学専攻と管理栄養士専攻に分離
1969(昭和44年)	4	九州女子短期大学に音楽科を増設
1970(昭和45年)	5 9	自動車教習所が県公安委員会の指定を受ける 九州女子大学附属自由ヶ丘幼稚園を開園
1971(昭和46年)	10	福原軍造理事長が米国国際大学より理学博士の称号を受ける
1972(昭和47年)	4 4 11	福原軍造理事長が米国国際大学より工学博士の称号を受ける 福原軍造理事長が全国日本学士会より学術教育功績賞を受ける 福原軍造理事長が叙勳三等旭日中綬章を受賞
1973(昭和48年)	11	福原軍造理事長の銅像を建立
1975(昭和50年)	4	九州女子大学附属高等学校に衛生看護科を増設
1977(昭和52年)	11	学園創立30周年記念式典を挙げる
1978(昭和53年)	4	九州女子大学附属高等学校に衛生看護専攻科を増設

学校法人 福原学園

九州共立大学

九州女子大学

九州女子短期大学

自由ヶ丘高等学校

九州女子大学附属折尾幼稚園

九州女子大学附属自由ヶ丘幼稚園